

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年11月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1071000259
法人名	加納商事株式会社
事業所名	グループホーム ゆうあい
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5 (電話) 0274-62-3252

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5

## 【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 17 人, 非常勤 0人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西毛病院、公立富岡総合病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「あなたのところを・あなたの生活を大切にしたい」をモットーに、管理者・職員一同は連携を密にしながら、本人の立場にたつて、様々な工夫や配慮をしている。利用者の清潔に関するケアはこまやかで、毎日の足浴、毎日2回の清拭、排便後のぬるま湯での洗浄等を行っている。新鮮な食材を使った季節感のある美味しい食事は、利用者の食欲をそそるであろうと思われた。閑静な住宅街の中に立地しており、庭の木々の緑が美しい。利用者と職員が共に過ごし、明るくゆったり生活しているホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念を玄関・食堂・ホール等見やすいところに明示している。緊急時の手当てでは、全職員が救命救急の講習を受け、実践訓練を行っており改善されている。家族への日常の様子提供では、来訪時に日頃の暮らしぶりを報告し、電話でも伝えており、毎月家族に写真を送付している。市町村との連携では、市に出向き担当者との情報交換をしている。一人ひとりの希望にあわせた入浴支援や継続的な研修の受講については、改善されていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、ホーム長、介護支援専門員2名で作成しており、全職員では取り組んでいない。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームから行事報告や外部評価についての報告を行った。討議内容「食中毒について」では、手洗い方法や加熱処理の仕方、消毒の方法等知識が覚えられて良かったという意見がでた。「防災訓練を兼ねて」では、消火器の実演訓練や通報の仕方、報知器の見方等防災器具の使い方を覚えられ、いざという時の備えになった。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>要望及び苦情の受付を文書で明示し、管理者がホーム側の窓口になっている。玄関に投書箱を設置している。家族等の来訪時には気軽に話のできる雰囲気づくりに留意し、意見・要望・苦情等を聞くように努めており、運営推進会議には家族も出席している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>区費を支払い、回覧板を回してもらっている。地区の道路清掃や生ゴミ当番、消防の研修に参加している。隣近所の人々とは日常的に挨拶を交わし、野菜等を頂いたりおはぎや赤飯等を届けたりしている。中学校の職場体験学習や富岡高等看護専門学校生の実習、ボランティア、ホーム見学の受け入れを行っている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるケア」としての事業所独自の理念をつくりあげようと、職員一同で検討しており、近日中に策定する事になっている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有しており、昼食後のミーティングや会議時に確認しあうようにしている。日々の実践の中で、言葉づかいには特に注意している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を支払い、回覧板を回してもらっている。地元の道路清掃や生ゴミ当番、消防の研修に参加している。隣近所の人々とは日常的に挨拶しており、野菜や果物をいただいたり、おはぎや赤飯を届ける等交流することに努めている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、改善に向け取り組む努力をしているが、今回の自己評価は管理者とホーム長、介護支援専門員2名で行っており、全職員で取り組んでいない。	<input type="checkbox"/>	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアのふり返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されており、ホームから報告や議題提案等を行い、出席者からの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域ケア会議に出席している。運営推進会議に市の担当者は出席していないが、ホームから出向き、市の担当者と情報交換等している。富岡高等看護専門学校生の実習の受け入れをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子や健康状態については、家族等の訪問時に話をしたり電話で伝えている。日常の様子を知らせる写真を撮り、家族に送付している。家族と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等に出席してもらい意見を聞いている。訪問時には話しやすい雰囲気づくりに留意しており、家族等の意見等は運営に反映させるように努めている。玄関に投書箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を受けられるように、主力スタッフは異動しないシフトを組んでいる。異動や離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、主力スタッフやホーム長がサポートしており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
離職					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に働きながらの職員育成を行っている。事業所外研修には管理者や主力スタッフは参加しており、内容については会議等で報告しているが、その他の職員の研修機会を確保していない。	○	地域密着型サービスの質は個々の職員の質によって成り立っている。全ての職員が質を向上させていけるよう、外部研修にはなるべく多くの職員が交替で参加し、段階に応じた研修を受講できるよう取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、交換研修や大会に参加する等、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。ホーム長が複数の同業者と情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームから面接に伺ったり、本人・家族等に見学してもらいながら、話し合いを何回も行い本格的な利用に移っていけるよう支援している。入居後も本人の思いの聞き取りに努め、好きな料理を食べてもらったり、家族等に電話をかける等支援している。家族等と相談しながら、徐々にホームの環境に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活場面や本人との会話の中から、職員が利用者に教えてもらうことも多く、笑いのある楽しい日々になるよう、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや意向を把握するよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、職員間で共有し日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、ミーティングや職員会議、全体会議の中で職員が気づきや意見を出し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行うとともに、状態の変化に応じて、その都度現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院介助や入院介助、入院後の洗濯、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、本人や家族等の希望、疾患の内容によりそれぞれのかかりつけ医で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族等に説明し方針の統一を図っている。かかりつけ医、家族等や職員等で連携をとりながら、状況の変化のたびに本人や家族等の意向を受けとめ、可能な限りホームで支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわない対応や言葉かけには細心の注意を払っている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、好みの食事や趣味の支援等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れており、新鮮な食材を使い季節感のある食事になるよう工夫している。野菜の下ごしらえを手伝う利用者もおり、職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事できるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっており、夏期には週3回、冬期には週2回入浴の支援をしている。午前と午後の変更には応じている。足浴と清拭2回は毎日行っている。皮膚疾患のある利用者には毎日入浴支援を行った。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら個別にあった入浴の支援をしてほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、針仕事、筆での書き物、郷土食づくり等で力を発揮してもらったり、散歩や買い物、季節の花見、庭でのお茶会、敬老会、外食、コンサートや喫茶店への外出、ボランティア(ハーモニカ、踊り、歌等)の来訪等で楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、庭での外気浴やお茶会、季節の花見、外食等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル、連絡網が作成されており、消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。地域住民の人々にも協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、申し送りや記録で職員は情報を共有している。いつでも水分補給ができるように用意してある。好きな食べ物や飲み物の希望に応じたり、水分が取りにくい利用者には職員がこまやかに支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は家庭的で明るく、庭の樹木や芝はよく手入れされている。プランターには季節の花が植えられ、室内には季節を感じさせる貼り絵が飾られている。居間の調度品や置物等は家庭的なものを設置しており、利用者がゆったり過ごせる共用空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が描いた絵、写真、筆筒、仏壇、ぬいぐるみ、花、好きな歌手のポスター等馴染みのあるものや好みものが持ち込まれており、その人らしく落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		